

市長会見の項目（概要）

と き：令和2年6月4日(木) 14:00～

ところ：市政記者室

■ 熱中症予防について（注意喚起）

<担当：健康局健康推進部健康施策課 電話：06-6208-9950>

【フリップあり】

- ◆ 年々暑さが厳しくなっており、大阪市での熱中症搬送数は、平成30年には2,000人を超えた。
令和元年は、平成30年より減少したものの、約1,700人と高い水準となっている。
- ◆ 気象庁の、向こう3か月の西日本の平均気温は、平年より高い見込みと予測されており、万全の熱中症対策をとっていただきたい。
- ◆ 特に高齢の方や小さなお子さんは、うまく体温調整ができなくなることや、暑さを感じにくくなることがあるので、熱中症になるリスクが高いとされている。特に高齢者の熱中症は約6割が室内で発生している。自分自身では気づかないこともあるので、お互いに声をかけ注意し合ってほしい。
- ◆ 少しでも意識がしっかりしていない方がいる場合は、救急要請してほしい。
- ◆ 新型コロナウイルスの出現に伴う、「新しい生活様式」における熱中症予防行動の5つのポイントが、環境省・厚生労働省から示された。
 - ①暑さを避けましょう
感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整。
 - ②適宜マスクをはずしましょう
気温・湿度の高い中でのマスク着用は要注意。
屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす。
 - ③こまめに水分補給しましょう
のどが渇く前に水分補給。大量に汗をかいたときは塩分も忘れずに。
 - ④日頃から健康管理をしましょう
日頃から体温測定、健康チェック。
 - ⑤暑さに備えた体作りをしましょう
暑くなり始めの時期から適度に運動を。水分補給は忘れずに、無理のない範囲で。
- ◆ 熱中症により救急搬送や医療機関を受診する方が増加した場合、新型コロナウイルス感染症の対応を行っている医療機関に負荷がかかってしまうことが考えられるため、熱中症予防を一層徹底する必要がある。
- ◆ 適切な予防方法を身に付けて、熱中症を防いでいただきたい。